

第3回金沢市中央卸売市場再整備の在り方検討会 議事録

●日 時 令和2年1月30日（木）午後2時～3時30分

●場 所 管理事務所 2階 会議室

●出席者 別紙名簿のとおり

●内 容

1. 開会

【山田局長 挨拶】

前回の検討会で、本市場の将来像について案をお示しし、ご意見をいただいた。今回は、いよいよ3回目、最終回ということで、まずはいただいたご意見をもとに将来像を修正した部分について、ご確認いただきたい。

また、将来像の実現に向けた具体的な施設設備についてどんなものが必要か、さらに施設規模について、この1月に市場内の検討チームにおいて藤島先生にお願いし、議論してきた。その案もお示ししてご議論いただくほか、最終の報告案についてもお示しして、ご意見を賜りたい。

2. 議題

1) 金沢市中央卸売市場の目指す将来像（案）

北野事務局次長が資料に基づき説明

【水野座長】

S D G s を取り上げた理由は、市全体としてその方向へ進むべきということか、S D G s の推進のため特別なものを市場に加えるということか。

【北野次長】

S D G s を意識して特別なことをするとか、取り入れるということはなく、この先、どんな場面でもS D G s を意識した活動になっていくであろうから、我々もそれに則って、意識していくべきという考え方である。

【水野座長】

中沢委員、金沢工大もS D G s を全体の目標に掲げて邁進しているが、これについてどうか。

【中沢委員】

私がS D G s に対して懸念を示すとすると、言葉と番号が中心になってしまふので、実際の仕組みがどうなのかということを議論していく必要がある。言葉で言うのは結構簡単だが、その先のリソースだとか、具体的にどういうアクションを起こすのかを考えていかなければならぬので、この段階ではこれで良いと思うが、次の段階では、S D G s について青果部や水産部

物がどのような取り組みをしているのかを示していく必要がある。

【水野座長】

私のジャンルで言えば、建築、設計界も S D G s に則ってやっていこう、都市計画の関係者も S D G s に則ってやっていこうと、どこも S D G s が目標になってきているので、逆に曖昧になってしまふ面もある。意識するとすれば、きちんとどこかで意識した方がいいだろうと思う。

【向市場長】

八田委員から意見を頂戴しておりますので、紹介させていただく。

S D G s の資料で、方向性として「自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる」と書いてあるが、やはり S D G s を考えるうえで、互いの文化を認め合うということが非常に重要であり、外に見えるように文化の多様性を発信することが大切である。これを市場に置き換えてみると、日本や金沢の食文化を理解してもらえるような市場であることが大切な視点ではないか、とのご指摘だった。

現在の市場での S D G s の取り組みについては、明日、S D G s の勉強会を開催する予定であり、また来月にもワークショップを開催する。市場の皆さん自身が、市場の活動を通して、S D G s にどのように貢献していくのかということも、具体的に考えていこうということ。そうしたことが、近い将来には、市場としての行動宣言的なものにつながっていくのではないか、と感じている。卸会社、仲卸会社の皆さんが S D G s に対して思いを持っている中で、今回、将来像に取り込ませていただいた。

【水野座長】

単なる理念として掲げるのではなくて、具体的に検討していくという意気込み。やはり内発的に動き出さないと、理念だけは立派だけれど実際は何をやっているのか、ということが課題になると思うので、非常に良い方向だと思っている。前回までの検討会には無かったが、盛り込むということでおろしいか。

(異議無し)

2) 再整備に向けた具体的な施設・設備・機能及び施設規模について 北野事務局次長が資料に基づき説明

【水野座長】

大まかな施設規模等について事務局から説明があったが、いかがか。最初に申し上げたように、事前に市場内検討チームで検討を重ねてきたデータで

あり、藤島委員、川邊委員から補足いただければ。

【藤島委員】

一番重要なのが、今後、取扱量がどれくらいになるのかというところだと思う。7ページの推計値について、数量がどんどん少なくなっていくということになると、北陸3県のハブ市場としてはこの推計値でよいのか、ちょっと少ないのではないか。それともう一つは、取扱量が少なくなっていくと、品数や消費者の方々が求めている多様性に十分対応できるのかということ。いろいろなものが入ってくるほど品数も多くなり、品質の違うものが入ってくるということで、消費者はいろいろなものを選ぶことができる。選ぶことができるというのは、生活として豊かになるということを意味するわけで、少なくなければ逆になるということから、できるだけ減らさない方向で考えていった方が良いという点からも、目標値として挙げた数値は妥当と考えられる。業者の方々も、この辺りを望んでいることがある。

ただ、業者の方々には、これだけの数値を目指すというからには、そのための努力をしていただきたいといけない。金額で見ると、例えば青果の場合、取扱数量が10万tであれば売上げは大体220億円から250億円ぐらいと考えられる。市場としての機能を考えると、それぐらいの金額規模がなければやっていけない。水産の場合、5万tで500億円ぐらいという勘定になるが、やはりそのぐらいの金額が必要だろうと思う。花も2,500万本ということになると、一本あたり100円とか100数十円となり、売上げとしては25億円ぐらいなので、決してそんなに大きな金額でもないということになる。だから、このぐらいを考えておいた方が、今後の金沢市にとって、金沢で暮らす方々にとっても必要になってくるのかなと思っている。

ただ、これはあくまでも業者の方の努力が無いと難しいですので、そのあたりは十分にご留意いただきたい。

【川邊委員】

藤島委員がおっしゃった通りだが、水産中心でお話をさせてもらうと、売上げでおおよそ500億円ぐらいの事業規模を維持していかないと、会社運営として厳しいというのが正直なところ。分析の結果として、現在比91.8%、4万2954tという数字が出てきて、売上げに換算すると400億円ちょっとになるが、運営としては厳しいかなと思う。卸・仲卸が健全経営をしていくためにはそれぐらいの取扱数量と事業規模が必要だろうというのは、我々にとっては必要最小限クリアすべき課題でもあり、そこら辺を考慮して数量・計画を提示させていただいている。

事業者の方も減っておられるし、高齢化もしているという部分においては、全国の集荷に関しては対応状況が違ってきている。去年はサンマや大和堆のイカ漁、或いは秋鮭とか、軒並み取扱品目に関しては、相当減ってきて

いる。そういうところをどうやってカバーしていくかというのが、各社の取り組みでもあるので、売場面積もおよそ80%になっているが、活魚の取り扱いとか養殖魚の取り扱いとか、或いは冷凍品・加工品の取り扱いを総合的にひっくるめた場合には、特に活魚売場は150%とか、養殖魚や冷凍品・加工品の取り扱いを増やしていくことで、全体で取扱数量が減にならない形を、企業努力でやっていくという考え方でいる。やれるやれないではなく、最低限この数字は達成しなくてはいけないと、そういう使命感を持ってやっていく。

市場の設備に関しては、食品衛生法も変わり、市場そのものもHACCPに対応していかなければならない、そうでなければ一般の方々に認めていただけないということは最低限なので、温度管理とか完全閉鎖型とか、高床式という建物を理想として構想を練っている。現在の建物ではとてもではないがそれには対応できない。

けれど、再整備によって面積割使用料は上がる。これは我々にとっても大変な負担になってくるので、そこら辺のバランスをよく考えて新市場の建設をしていかないと、真剣になって考えていかないと厳しくなってくるのではないかと思う。ざっくり言うと、HACCP対応ができる形になるのであれば、それ以外のコストを抑えて建設するというのも一案ではないか。欲しいものをどんどん取り込んでいって、それでコストがどんどん上がってきて、最後にはやっぱりこんな施設いらない、という話になるのであれば、後々後悔するだけなので、慎重に話を進めていく必要がある。

【水野座長】

分析によると、だんだんと取扱数量が下がっていく。一方で、ハブ市場として伸びていこう、品数を増やしていこうとか、或いは企業努力として会社経営として下げられないので上げていこうという、マイナス要因とプラス要因の間で、こういうデータが出ているかと思う。

流通の仕方で、市場を介さないで物が動くことが増えるのではないかという予測があり、それから情報化社会の中で、果たして物が本当に動いていくのか、それから産地と消費者が直接に繋がってしまうとか、将来いろいろと変わりそうだという状況だが、それに対してどう考えるか。先ほど、イカとかサンマとかの話があったように、資源枯渇とか、そういった問題も今後出てきそうであることと、それから日本の農業の弱体化によって輸入品が増加することとか、その辺のことがどういうふうに反映してくるのか。

【藤島委員】

流通ルートというのはいろいろあって良いと思っており、市場外流通が増えても何ら問題ないと思う。ただ、今後市場外流通が増えるかどうかということについて、品揃えをするかどうかが大きな問題だと思っている。

というのは、市場外で取引することになると、品揃えは非常に少なくなる。具体的な例として、コストコという量販店について、市場外で仕入れているのは間違いないようだが、その品数と、市場から仕入れている、或いは問屋から仕入れているスーパーの品数がどれくらい違うかというと、コストコの4,000アイテムに対し通常のスーパーは4万アイテムということで、1／10ぐらい。また、市場外で仕入れることになるとコストは高くなる。というのは、例えば卸売市場の場合、出荷者が持ってきててくれる。市場外流通の場合は、いちいちシーズン毎に運送契約が必要になり、それだけでコストがかかる。

それだけではなく、実は輸送コストが全然違う。例えば金沢市内でコンビニの店舗を回るトラックで、1kg運ぶのにいくらかかるか。東京都内の場合、だいたい3t車を使っているが、大体1kgで10円かかる。ところが、ブラジルから日本へ鉄鉱石を運ぶときには、1kgで1円か2円、せいぜい3円程度。コストが違うのは、輸送単位が全然違うから。卸売市場の場合、大体荷物を持ってくるのが10t車で、これから施設整備を考える時には20t車或いは連結で引っ張ってくることも考えなくてはいけないと思っているが、いずれにしても輸送単位が全然違う。例えば白菜の場合、一つで2kgぐらいあるが、関東圏内では運ぶのに900円くらいかかる。小売店に行けば2玉は買える値段になる。

また情報化が進んでいるアメリカで、アマゾンで買うのとウォルマートで買うのとでは、日経新聞によるとウォルマートの方が2～3%ほど安い。アメリカは卸売市場が衰退しており、日本のような形での大量輸送は存在せず、店舗ごとあるいは起業ごとの輸送になっているが、アマゾンのように一つ一つ運ぶ方が高くなるという。

つまり、通常は卸売市場を経由した方が安い。実際、多くの方々が、直接取引あるいは生産者から直接買う方法を薦められて、安くて鮮度が良いよという話をされるが、通信販売というのは取引全体の2.6%ぐらいで、それ以外はいわゆる情報取引ではない。高いと思われているかもしれないけれど、実態実感としてはやっぱり小売店で買う方が安い。

それから生産力の問題にしても、確かに国内の生産力が衰退していくと輸入品が増えてくるが、輸入というのは多品目ではなくて、ある一定の決まった品目が入ってくるため、市場を通さない可能性が高くなる。水産物が特にそうだが、輸入品が増えてきたことで、かつては80%ぐらいの市場経由率だったが、市場外取引が半分ぐらいになっている。輸入品というのは加工原料向けだから、加工されて缶詰になってしまったものが卸売市場を通ることはほとんど無い。そういう意味で、輸入が増えると市場外取引が増えるということはある。国内生産が衰退すれば食糧自給率も低下し、国内の消費者にとって非常に大きな問題になりうるところだと思う。

そういう点で言うと、国内に卸売市場がある方が国内生産を維持する可

能性は高い。だから、できることならばたくさんの卸売市場があつてくれた方が良いということ。

【水野座長】

この7ページの数値は、基本的な目標値になるので、非常に大事なところ。中沢委員、新家委員から何かご意見は。

【中沢委員】

確かにハブとして、そこにいったん物が集まるというのは非常に重要だと思う。お互いに直接行き来するというのが、流通として効率が悪いというのは当然で、市場を通すことによって品質が管理されるのであれば、なるべくこの数字を守っていくべきだと思う。

【新家委員】

藤島委員のお話はよく理解できた。その前の川邊委員のお話も、私も同じく経営者として、こういう状況の中でこれだけの目標を掲げるというのは、経営者としては非常に納得ができる数字である。その数字を達成するため、経営者として方策をどうやっていくかが一番大切なところで、川邊委員もこれからいろいろな形で努力されていくのかなと思う。

その中で、一つの切り口として、先程のSDGs、どうやってこれを今後の方策の中に盛り込んでいくかが非常に大事なことで、例えば、金沢の自然・文化・歴史の中で、加賀野菜について生産量を増やしていく中で、卸売市場で注目を集めて消費者へ届けていくというのも一つの方策であり、金沢SDGsの中の「“もったいない”がないまち」の中に、フードロスの解消とかが書いてあるので、これをどうやって各社の方針として落とし込んでいくかが大事なのだろう、と理解している。

【水野座長】

能木場委員はいかがか。

【能木場委員】

大きい目標で新しく市場が整備されるということで、もう道路の整備も済んでおり、北陸3県からいろんな物が集まつくることで、目標値をオーバーするぐらいの取引があって、この市場が有効活用できる、そうなつたら嬉しいなと思っている。

【水野座長】

7ページの10年後の目標値については、よろしいか。

(異議無し)

【水野座長】

それでは、この目標値に対して、施設がどういう面積になるか、どういう設備にするか。市場にどう反映されるのか、次の8ページでは現状の8割程度で良いという数値が出ている。これについてご議論いただいて確認していきたい。先程の説明では、8割になるという算定根拠の話が無かったと記憶しているが、どのようにしてこういう数字で出てきたのか。

【北野事務局次長】

国の算定基準をベースに、ヒアリング等を通じて収集した使用実態等を勘案して算定した。

【山田局長】

7ページに、目標を達成するための理由を記載しているが、青果・水産物については業務用需要や加工品需要への対応を強化する必要があると思っている。八百屋や魚屋といった小規模な小売りが減る中で、小売が大きくなっていく中で対応するためには、こういったことが絶対に必要になる。加工品や業務用需要のほか、在庫を調整するような、平準化するような機能、そういうものに耐えうる新たな機能を付け加えていかないと、この目標の達成は難しい。こういったことを業界と協議させていただき、きっちり対応していくということで増えている。

【水野座長】

こういう新しい施設を造ると、どんどん大きくなるというのが常なので、8割で良いというのは珍しい。

【村山委員】

やはり、最終的には施設使用料にはね返ってきますので。

【水野座長】

川邊委員からご意見があれば。

【川邊委員】

現状の売場面積についてどう思うかというところが、基準になっている。今後の入荷量等を考えた場合、現状の売場から2割減くらいになんでも、実感として十分に対応しきれるだろうと。村山委員もおっしゃるように、面積割使用料に移行するにあたっては各社に負荷が掛かってくるため、できるだけコストを抑えていきたい。

【新家委員】

備考欄に「新設」と書いてあるのは、加工品需要への対応を強化したいとか、青果部との効率的な連携をしたいということに関連して出ているのだろうと理解しているが、それでよろしいですか。あと、青果共同配送センターが、ほかの施設は7割～8割のところで、ここだけが300～400%になっていて、これについてコメントをいただきたい。また、表の下に※印で、市場の主たる施設でない面積は除くと書いてあるが、これらが加わると7割～8割が9割とか、そういう数字になってくると理解してよろしいか。

【向市場長】

まず1点目について、共同加工施設やピッキングセンターなど、特に新設の部分は、これから事業として強化していくところで、現状は、それぞれの仲卸業者が市場外に持っていて、小さい規模の中でやっている部分もある。こうしたものを市場の中に取り込むことで、より鮮度のいいものにして出していける、効率よく出していけるというものにしていくことで、先ほどの目標値をしっかりと達成できる市場にしていきたいということ。

次に青果共同配送センターについて、現状は規模が515m²だが、現実に使っていると到底これでは足りないという声がある。物流の効率化を図っていく上では、最低でも現行の4倍ぐらいのスペースが必要だということであり、挙げさせていただいた。

最後に共用部分の面積について、一番大きく占めている駐車場についても、ある程度縮小していけるような形を考えていきたい。現在、このような形でまとめているが、もっと抑えられるのではないかという部分が大いにあり、実際にこのような施設を作り上げても、全体としてはそこまで増えるとは見込んでいない。

【水野座長】

おおよそ施設規模については、よろしいか。

(異議無し)

【水野座長】

4ページに戻って、4～6ページにおおよその絵が示してある。このままのものができるとは限らなくて、一つのポンチ絵みたいなもの。私からの質問だが、4ページのところにランプウェイがあって、2階部分に加工施設のトラックが止まって、3階に共同配送センターのトラックが止まっている。このように平面で処理しないで立体化するというのは、土地が狭いという条件があるからか、それとも、この方が効率が良いのであって、土地の面積に

関係はないということか。

【向市場長】

今回の議論の中では、敷地を有効に活用するという考え方で整理されたもの。まずは共同加工施設も共同配送センターも、機能として必要だというところを大前提に置いて入れたものだが、これから配置計画とかローリング計画とかを考えていく中では、多少の変更も出てくるかと思っている。

【水野座長】

2階に共同加工施設を、3階に共同配送センターを設けなければならないというわけではない、ということか。

【向市場長】

現在の青果部の中でのイメージとしてこういう形になっているが、このまま設計することではない。

【中沢委員】

卸売場が、現状から30%とか50%とかになっているのは、垂直保管システムを設置するためにこのサイズになったということか。3階建てになっている理由が、そこにあると思ったのだが。

【向市場長】

そうしたシステムを導入するということを前提にした形で考えているが、これも市場内の皆さんとの議論の中では、今後、施設の使用料が明確になる中で変わっていくという話もあり、導入を前提にした中で必要とする面積はおよそこのぐらいというものである。

【水野座長】

これをさらに詳しくするには、敷地全体の配慮とか、個々の効率の問題とかいろいろあるので、次の検討段階を経なければ難しい。

先ほどの7ページ、8ページの数字が、今回出てきた非常に大事な根本的な数字だと思う。その内容を報告いただいたので先に進むが、このあとのスケジュール等についてはいかがか。

【村山委員】

次年度は基本構想を策定する段階に行くと思っている。ただ、その中で、今までご議論があったように、施設の使用料が幾らになっていくかで、事業者の皆さんの要望も変わってくるところもあると思う。配置計画であるとか、入荷から出荷までの動線、それから場内場外でのトラックの動線につい

ても検討する必要がある。また、現地での建て替えになるので、ローリング計画も作っていかなければならず、その辺りをこれから確定していくという形になる。

市場もほぼ 50 年経過ということで老朽化しているので、早く進めていきたいとは思うが、まずは基本構想を策定して、その上でローリング計画などが決まっていくと大体どのぐらいで建て直しというのは見えてくるので、いずれにしろスピード感を持って、やっていきたい。

【水野座長】

業務を継続しながら建替えというのは大変なことで、そういう意味では平面的に展開するよりは立体的に展開する方が、施工面積を少なくするという点で非常に良い方法ではないかと思うが、それも含めて、実際の計画はなかなか難しいことになるだろうが、この敷地で、公設でいきたいという原則論を貫きながら進めていく、そういう計画を作っていく必要がある。

今回の検討会の報告をまとめなくてはならないが、検討会報告書案について説明いただきたい。

3) 金沢市中央卸売市場再整備の在り方検討会報告書（案）について

北野事務局次長が資料に基づき説明

【北野次長】

今ほど座長より、この後の見通しについてどうなるかとのお話があったので、ご意見をいただいたということで報告書にまとめさせていただく。

【新家委員】

2 ページ目の目指す将来像について、前提条件で「S D G s を意識した方向性・方針の検討も必要」とあるが、「も」じゃなくて「が必要」にしていただきたい。

【水野座長】

座長として市長に報告書をお届けする役割があり、最後の細かい修正についてはお任せいただきたい。

(異議無し)

【山田局長】

これまでの皆様方のご議論をしっかりと心に受けとめ、前に進めていきたい。

以上